

2021年度 学校自己評価表

中長期目標(学校ビジョン)
1. 鳥取県内有数の進学校としての地位の確立 ①国公立大学・難関私大現役合格率6割以上確保 (すべての生徒が妥協せず本当に行きたい大学に進学する) ②進研模試、校外模試において学年平均偏差値60以上確保 (偏差値70以上の生徒3名以上) ③各種検定の規定級以上を全生徒が取得する。 2. 「学力面で優れた生徒＝人格的にも優れた生徒」 という湯梨浜学園の生徒像確立

今年度の重点目標
1. 学習指導の充実と進路指導の強化 ◇国公立理系医・歯・薬・獣学科等の現役合格を目指す。国公立文系準難関大以上の現役合格を目指す。22名すべての生徒の進路実現を現実のものとする。 ◇各学年、学力推移、進研模試における各教科及び3教科総合全国偏差値平均を前年1月(中1は今年度7月)の学力推移を基準として3ポイントアップ、偏差値平均50以上、偏差値60以上5名以上の実現。 ◇各種検定取得率アップを目指す。規定級を超える生徒数の増加を目指す。英検110名、数検80名、漢検70名、理検30名、N検30名以上の合格者をだす。 ◇速読講座、スタディサプリ、土曜個別講座など多様な補習体制で生徒の弱点克服を目指す。 ◇SDG s を主体とした課題研究に全校を挙げて取り組む。 2. 学校運営の充実と教育環境の整備 ◇各分掌の活動を充実させ、PTAとの連携、地域との交流を図りながら、校務が機能的に運営されることを目指す。 ◇学校通信、学級通信など各種広報紙の定期的発行、HPやFB、BLEND、You Tube、Zoomなどをつかったの情報提供迅速化、頻繁な更新に努める。 3. 生徒指導の徹底と教育相談の充実 ◇「あいさつ」「返事」「掃除」を指導の3つの柱に据え、規範意識を高めて、社会に必要とされる人間形成に努める。 ◇適宜個別面談などを通し、生徒理解に努め、教育相談、スクールカウンセラーとの連携で悩みの解決や相談にあたる。 4. 人権教育の推進 ◇あらゆる場面、あらゆる教科で、すべての先生が人権教育視点に立った教育を行う。 ◇いじめのない学校をめざす

評価は S(達成) A(ほぼ達成) B(あと一步) C(未達成) です。

評価項目	具体的項目	中間評価	達成状況(年度末)と次年度の課題	評価
1. 学習指導の充実と進路指導の強化	国公立理系医・歯・薬・獣学科等、国公立文系準難関大以上の現役合格		国公立大学6名を含み難関大学及び難関私大19名と現役合格を輩出したが、国公立の医・歯・薬・獣医の現役が王核には至らなかった。	B
	校外模試における数値目標達成	A	年間で偏差値3ポイントアップについては、学年によって達成できた学年とできなかった学年があった。偏差値60以上の生徒5名以上に関しては、生徒数の多い学年は達成することができたが、生徒数の少ない学年に関しては、少し届かなかった。	A
	各種検定取得率アップ	B	英語検定取得110名をはじめ、数学検定、漢字検定、理科検定、ニュース検定など多くの資格を中学生、高校生共に取得することができた。特に上位級の取得者が昨年度より増加した。	A
2. 学校運営の充実と教育環境の整備	各分掌活動の充実、PTAとの連携、地域との交流を図る	B	コロナ禍によりPTA活動、地域との連携活動に制限がかかる状況であった。しかし生徒全員が取り組む課題研究の中で、感染症対策に十分に留意しながらも、さまざまな分野の企業、研究所と交流させていただいた。	B
	HP、FB、Blendなどでの積極的情報提供	A	HPをスマホ対応のものに一新することにより、多くの方から見やすくなったと高評価をいただくことができた。また、感染症対策や濃厚接触となった場合などのホットラインを作ることにより、保護者の方々から即座に情報収集することができたが、模試日程、補習日程などの誤配信もあったので次年度は体制を強化する。	A
3. 生活指導の徹底と教育相談の充実	生徒指導の3つの柱を、教職員間でのブレなく徹底する	B	挨拶、掃除、返事の徹底をすることができた。特に掃除の面においては、昨年度より感染症対策に留意し、ごみの捨て方、雑巾の使用、机上、ドアノブなどの消毒などの徹底が見られた。	A
	生徒との教育相談の機会を充実させ、自己肯定感を醸成する	B	生徒面談、保護者面談を通じて、生徒や保護者の方々の悩みを聞く機会を設けた。しかし、高校部の特に進路指導面においては、親身になるすぎるとあまり情報を提供しすぎてしまい生徒、保護者を混乱させることもあった。中学部においては、生徒からの情報提供後の対応が機を逸する場面があった。次年度は報連相をより強固なものとする。	C
4. 人権教育の推進	学校生活でのあらゆる場面で、人権教育的視点にたつ	B	生徒、保護者の中で目立った意見はなかった。UNICEFの方々をお招きし、対面にて生徒たちに人権教育講演会を開催することができた。	A
	いじめアンケート、ケース会議を実施し、生徒の心の動きを敏感に察知する取り組みを設ける	A	年2回のいじめアンケート・体罰調査アンケート、年度末の生徒・保護者学校評価アンケートを滞りなく実施することができた。	S